

リハビリ職との同行訪問事業を ご活用下さい



藤井寺市の考える自立支援の取組みについて

高齢化が進展する中で、自立支援・重度化防止のための取組みが求められており、ケアプランにおいては利用者にとっての自立に資するものであるよう、多職種の見点から検討することが必要とされています。本市では自立支援の手法を考えるため、モデル事業として「Let's☆ヨボヨボ予防！」を実施し、運営委員会での議論を重ねながら効果的な支援の在り方、連携の在り方を検討してまいりました。

その結果、「会議で紙面上のプランを点検する」という手法が多くある中、本市では「現場でリハビリ職と協働してプランを作成する」という独自に工夫した方法により、リハビリ視点を取り入れたケアマネジメントの強化に加え、利用者自身の意欲アップにも大きく働きかけることができました。

この成果に基づき、高齢者が笑顔でいきいきと暮らし続けられる地域を目指し、「いきいき笑顔応援プロジェクト」を実施します。リハビリ職との同行訪問という形は、リハビリの早期介入や連携促進も実現でき、効果的な自立支援を促進できるものと考えますので、事業の積極的なご活用をお願い致します。

事業概要 「いきいき笑顔応援プロジェクト」について

1. 事業の位置付け

地域リハビリテーション活動支援事業（地域支援事業のうち一般介護予防事業の一つ）として、市が実施します。介護報酬や利用者負担はありません。

2. 同行訪問の目的と概要

ケアマネジャーとリハビリ職が利用者宅へ同行し、協働しながら支援方法を考えていくことで、自立支援を促進することが本事業の目的です。アセスメントやサービス担当者会議、モニタリング、評価等の各過程でリハビリ職の助言・指導が必要なときに、同行を依頼していただけます。リハビリのサービスを導入しなくても、リハビリ職が介入できる仕組みです。

3. 同行訪問の対象となる利用者

主に要支援認定者を想定しています。新規の場合だけでなく現に担当している場合や、また、要介護の場合でも、リハビリ職の助言により支援の効果が見込まれると思われるケースはご相談下さい。

4. 同行訪問の手順・方法

利用者の同意を得た上で、市へ申込書を提出して下さい。市にてリハビリ職との調整を行います。初回はアセスメントへの同行となります。サービス担当者会議など2回目以降の同行の依頼については、個別のケースに応じて必要性を判断し、担当のリハビリ職と直接連絡を取り依頼していただけます。

5. 同行するリハビリ職

大阪府作業療法士会及び大阪府理学療法士会へ派遣を依頼し、推薦された療法士（現在3名）に昨年度から引き続きご協力いただいています。同行訪問における手順や、ケアマネジャーと療法士の役割分担など、運営委員会にて議論を重ねてきましたので、安心してお任せ下さい。

6. 留意事項

同行訪問のケースで作成いただいたケアプラン及びアセスメントシートは、地域課題やニーズの把握・分析のため、検討資料とさせていただきます。本市の介護予防・生活支援サービスの充実へとつなげていきたいと考えておりますので、ご協力下さいますようお願いいたします。

※裏面もご覧下さい

（お問合せ先）高齢介護課総務担当 ☎939・1164

同行訪問に関する生の声

ケアマネジャーの感想

○リハ職が介入して効果があったこと

- ・「進行性の病気で、高齢による筋力低下とは明らかに違う対応が必要だったため、効果的な方法が何か、早い段階でご利用者に説明できた。」
- ・「ご家族やご本人の希望が別の所にあっても、ご本人にとって何が必要かを説明して頂くことで、理解を得やすかった。(パワーリハビリ希望→個別リハのあるデイが望ましい)」
- ・「身体の動きでやりやすい動作や困難な動作を確認しご本人やご家族に指導することができ、また自宅でも取り組めるリハビリを伝えることでご本人の意欲が高まり、喜んでおられます。」
- ・「リハ職が介入することで、ご本人やご家族が改善に向けての具体的な不安や心配を言葉にできていた。」

○自分自身で勉強になったこと

- ・「無理をしないことと、積極的に動かないことを同じように考えていた。“できないことを支援する”ということに注目しすぎていたが、“なぜできないのか？”“どうしたらできるのか？”を考えるようになった。」
- ・「パーキンソニズムで転倒の危険があるため、トイレ・風呂・玄関等への手すりが必要だと感じたが、現在行えている動作から必ずしも手すりは必要ないとのリハ職の判断には目からウロコでした。」
- ・「いろいろ聞いているつもりだったが、方向性を変えた質問で、見えなかったご本人の生活や困りごとが分かった。」



厚生労働省より

「藤井寺市様は、介護支援専門員が療法士の視点を知らただけでなく、利用者に直接働きかける方法をとっており、現場にある答えを共に探すやり方、利用者の知る・考える・選ぶ権利をしっかりと保障し、動機付けも併せて行われている点が素晴らしいと感じました。

自立支援を行うためには利用者の尊厳を保持すること、同時に支援するチーム構成員である各専門職の専門性や自律性への尊重もなければ、自立支援に向けたチームケアは成立しません。

藤井寺市様は大きな柱を大切にされながら、新たなアイデアに基づく取組みを展開されていると感じました。」(H29.3.10 実施状況報告会にて)

(モデル事業「Let's☆ヨボヨボ予防！」は、『適切なケアマネジメントを推進するための保険者機能のあり方に関する調査研究事業』の一つとして、報告書に掲載される予定です。)

リハビリ職より

リハビリ職は、「やりたいこと」「今できなくなったこと」に対して、「どうすればできるようになるか」を考えます。この同行訪問では、身体機能や生活動作を評価し、予後予測し、専門職の視点からのポイントと我々からみた目指すべき目標設定をご利用者・ケアマネジャー、各事業所担当者に助言いたします。

身体機能に関することは、目標を達成するにあたり必要な筋力はどこであるとか、こういう練習をしたほうが良いなど、我々からの説明はご利用者にとって理解しやすく、受け入れやすいようです。また、現実的に達成可能な身近な目標を段階付けることと、目標においては「数値化」することで、今後が大きく変わることも実感しています。

サービス担当者会議においては、例えば通所でのマシン利用時のポイントや、訪問介護では本人のできることや道具を助言することで、より自立支援に向けた提案ができます。ぜひ一度、同行させて下さい。

H28 Let's☆ヨボヨボ予防！ 運営委員

- 大阪府作業療法士会
岡本 宗
河合 英紀
 - 大阪府理学療法士会
野崎 誠
 - 藤井寺市介護保険事業者連絡協議会
山中 久美
川勝 深雪
 - 藤井寺市地域包括支援センター
石山 直哉
東瀬戸 久子
西 淳子
羽根 武志
佐々 英治 (敬称略)
- 多大なご尽力を賜りありがとうございました。
- 藤井寺市高齢介護課
杉多 克一
小川 宏
佐藤 美早紀
今西 悠人

同行訪問は、ご利用者の自立支援に大きく貢献できるものと確信しています。是非ご利用下さい。